

KSKP**Threshold**

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.39

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



18 年ぶりのリーグ優勝 阪神タイガース

皆様、お久しぶりです。しばらくの間ニュースレターの発行が遅れていました。年度6回の発行なので次年度までにあと3回の発行になります。頑張りますのでよろしくお願いいたします。

さて、18年ぶりに私たちのまちの象徴の一つである阪神タイガースがリーグ優勝いたしました。私は愛知県の出身ではありますが、おじいちゃんが熱狂的な阪神の村山実の大ファンで、私もおじいちゃんっ子だったので、ストライプのユニフォームが小さい頃から記憶に鮮明にありました。おじいちゃんの命日が偶然にも私の薬物が止まった日、11月8日であることもありおじいちゃんが天国で見守っていてくれる感覚をずっと小さい頃から持っていました、そんなこともあり18年前の優勝の時の私は人生で一番どん底の状態でしたし私は何か頑張ればなんとかなると思う癖があり、自転車で東京に行ったこともあります。18年前に愛知から甲子園球場にも自転車で来たことがあります。おかしい行動ですが気持ちはなんとかしたいという気持ちで必死でした。そんなこともあり、今回の優勝の瞬間は甲子園球場で偶然にも立ち会うことができました。皆様にとって18年前、そして18年という歳月はどうだったでしょうか？ まさか自分が神戸の地で甲子園にて阪神タイガースの応援をしているとは想像もしていませんでした。回復とは失敗の日々があるからこそ大切にできます。そしておじいちゃんへ。優勝したで阪神。感動して涙が出たよ。ありがとう。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 ←郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

西宮ファミリーカウンセリングオフィス

〒663-8177 兵庫県西宮市甲子園七番町 9-18 H2O 甲子園 303 TEL 078-600-9525

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

リカバリーホーム 2&3 TEL078-764-6988 (神戸市垂水区)

SPEAK EASY(タコス & お弁当販売) 神戸市長田区久保町 3-6-9 1F TEL 078-584-3902

指定就労継続支援 B 型(10 月より)事業所 ぱっくやーど 神戸市長田区久保町 3-6-9

姫路アディクションサポートセンター 〒670-0832 兵庫県姫路市双葉町 96 Tel 079-255-5033

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

カナダでの施設研修およびリカバリーデイに参加して

代表理事 梅田靖規

9月4日から約10日間の施設研修としてカナダブリティッシュコロンビア州(BC)バンクーバーのニューウエストミンスターにあるLast Door(ラストドア)という、私たちダルクと同じように12ステップを中心とした民間の回復施設へ、群馬ダルクのショーンさん、プーさんを中心に他のダルクの責任者の方々やハワイのトムなどと一緒にに行ってきました。結論から言いますと、私のダルクとしての大きなマイルストーンなるような過去にない大きな学び、経験になった10日間でした。それとはまた別に、私は人生初めての海外旅行、人生初めての飛行機はカナダでして、初めての海外旅行で言葉もわからないままスノーボードの板だけ持って半年間滞在しました。当時はスノーボードバブルで、私も世界大会に出たり、スポンサーさんから板やサングラスをもらったり、大麻を教わったり、アルバータでバックカントリーにて遭難したり、Hi-STANDARDに出会ったり、Sパーティーで炙りを教わったり、私の人生の出発点でもあったので私の依存症の人生が始まった場所にもう一度戻るということに心躍らせて参加してきました。

また、ラストドアの計らいで、ニューウエストミンスターの街で行われる「リカバリーデイ」という、5万人近くの人に参加する依存症のお祭りイベントが開催される日程に合わせて参加することができました。

まず最初に驚いたのは、施設の玄関の鍵を一人ずつ渡されたことです。「ここはもうあなたの家だから鍵は無くさないようにずっと持っていてください。一生」と鍵を渡されました。家族だから家の鍵を渡すということでした。ここには社会復帰はあっても卒業は無いそうです。卒業ではなく家族になるということです。なので、ここを巣立って行った仲間たちはみんな家の鍵をもらって巣立っていきます。僕は「そんなことをして出て行った人に泥棒に入られたりしないのか?」と聞きました。「一度もない。家族だからいつでも帰ってきてご飯を食べにきてもいいんだよ。もちろん無料で」とのことでした。夕方になると、巣立った仲間たちが入寮生をNAに連れていくために車で迎えにきます。夕食を食べにきます。空いた時間は利用者はのんびりしたり、おしゃべりしたり、ゲームをしたり、そしてご飯もいただきましたが美味しい!地域のいくつかの家を買い取って本当の家族のように過ごす中、エンカウンター形式のグループワークに参加させてもらいましたが、これがまた面白い。依存症施設で人生を取り戻すためにはこれだけの情熱とサポートと動機付けや実践が必要であることを痛感いたしました。私たちの実践するお手本にもなりました。

施設運営に関しても、現在BC州ではハームリダクション政策が中心行的に行われ、現在ダウンタウンの東側では、フェンタニルという薬物による蔓延が深刻な問題となっていました。私もその地域に行きましたが、ドキュメント映像に出てくるゾンビタウンのような画よりも深刻な状況でした。フェンタニルは簡単に死に至る薬物で、心臓が止まってしまう、蘇生させるためのキットがコンドームのように無料で大量に配布されています。蘇生のための注射器か使用のための注射器か区別もつかないくらいの大量の注射器がストリートに散らばって落ちていました。日本に入ってからないことを祈るばかりです。そのようなことからハームリダクションと言っても様々な側面があります。公衆衛生の部分だけでなく、施設運営にも影響があり、代替治療薬を使っでの治療を進めなければ、施設運営の補助などが一切なされないというような政治的側面もある中、私たち日本のダルクと同じようなスタイルでやってきたラストドアは、私たちの12ステップを中心とした生き方、スピリチュアルな生き方に信念があり補助を受けずとしても地域の力と回復したメンバーのエンパワーで運営されていることを目の当たりにしました。近藤さんの言っていたのはこういうことなのかも?と思い、近藤さんとこの施設の代表のデイビッドとお会いさせたかったと思いました。



また、何よりもスタッフたちがとても元気。回復と薬物から

の解放された生き方を、本当に心から楽しんでる姿にも心を打たれました。日本の回復支援にもスタッフたちは興味を持ち、そんなことを毎日分かち合う数日間でした。

そして週末にはリカバリーキャピタルというカンファレンスにも参加させていただき、待ちに待った「リカバリーデー」にその翌日に参加しました。当初「始まった時は100名くらいだったのが今回は参加者5万人」と聞いていたので「五万人って東京ドーム満員ってことでしょ」と思い、ちょっとおおげさだなあと感じていましたが、当日を迎え、意味がわかりました。

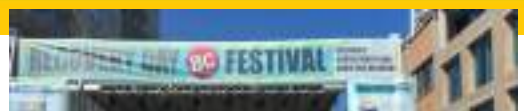
5万人をはるかに超えた地域の人々や依存症に苦しむ人や回復しながら生きている人が、ちょっとした街の中心のストリートが歩行者天国になり、美味しそうなキッチンカーが並び、様々な依存症関連の団体のブースはもちろん、たくさんの家族連れが楽しめるように、街の中心にはシャボン玉が大量に空を舞い、子供たちもおじいちゃんたちもみんな楽しめる空間でした。そんな中レインボーに道路が塗られた場所では、薬物で亡くなった人を思うツリーがあり、たくさんの人がメッセージを日本のおみくじのように付けていました。私もポールのお骨を持って行っていたのでそこで散骨し、一緒に参加した仲間やカナダの仲間と祈りました。私が若い頃カナダに行っている間にODで亡くなった彼女のことも祈らせてもらいました。そんな回復を楽しむイベントの本質と意義を感じ、付け焼き刃ではできないこの取り組みを小さくてもいいから私たちも取り組んでいこうと強く思いました。地域の理解を依存症から回復した仲間がいれば難しいことではないと思います。また、その最中にも、そのストリートにはホームレスのような生活をした薬物依存症者が道路に横たわっている現実も見ました。そんな仲間にハワイのトムは抱きかかえてハグをしていたそうです。

そしてイベントも終わり、皆は施設長のデイビッドのファームへ行ったのですが、私はカナダはフィリピンと同じく第二の故郷に帰ってきた気持ちだったので、みんなと別れて、私が大麻に明け暮れ、またスノーボードの本当の楽しさを見つけたウイスラーへ1日観光してきました。街並みは変わっていたものの、自然と山の景色は変わらずマウンテンバイクを借り、山の麓で景色を眺めながらホットドッグを食べてずっと山を眺めていました。

私はとても若かった。27年前にとにかく自分に自信がなくて一生懸命スノーボードが上手くなりたくて過ごしたカナダ。私の人生のマイルストーンはあの時から始まり今日に至ります。

カナダで僕に大麻を教えた奴とは、数年前に再会して彼は大金持ちになり年に一度「あなたに大麻を教えてしまい申し訳なかった」ということで、ヘリコプターと一緒にスノーボードに連れて行ってくれる関係も保っていますし、自然の素晴らしさを薬物依存からの回復の中でもう一度思い出させてくれるベースになったカナダで、もう一つ、回復支援と回復した生き方のお手本を見つけました。これまで様々な海外の施設での経験をしてきました。お金持ちのための高級施設、TC治療共同体施設での生活、フィリピンでの入寮者と一緒に過ごした日々、たくさんありますが、様々な政策の変化で形態を変えざるを得ない現実もあります。

日本でも色々とは変化は起きています。私は今回、近藤さんが言いたかった様々なモチーフを感じました。その部分を私は忘れずに活動していこうと思います。I will be back to BC!



今年の夏キャン

スタッフ ユウ

8 月に 2 泊 3 日で仲間たちと奈良の天川村へ行ってきました。毎年恒例になっている夏の川遊びキャンプです。本当なら今年は 8 月に 2 回キャンプがある予定でしたが、前半に企画していた十津川村でのキャンプは雨予想がズレそうになかったため、中止になりました。神戸ダルクのニュースレターを欠かさず読んでくださっている方はご存知かと思いますが、去年の十津川村キャンプが、明け方に防災無線がかかるほどの一大事(泣)でしたので、今年は特に大雨に警戒しながら、中止・決行を決めることになりました。

仲間はもちろん私も天川村は初めてで、どんなところかな？川は子供も遊べるのかな？涼しいかな？過ごしやすいといいな…なんてことをワクワク考えながら、キャンプの準備を進めていました。今年の夏はダルクを飛び出したり戻ってきたり、また飛び出したり、の仲間があったりで人数はいつもより少なかったのも、食事班、設営班、と分かれても段取りが上手くいくよう食事のメニューは簡単に作りやすく美味しいもの！をテーマに考えました。カラフルで写真映えする串焼き BBQ、暑くても食が進むジャージャー麺、夏野菜がしっかり取れる薬膳スープカレー、ホットサンドのホットドック風、混ぜるだけビビンバなどなど。私は女性施設で食事当番をやっていたので、施設での食事作って本当に大変なことを知っていて、それでもできていたのは、やっぱり作ることと食べることどちらも大好きだったから。そして、仲間の「めっちゃ美味しい！」って言葉がやっぱり一番の活力になっていたんですね。男性だけの施設で、ボリュームがありバランスもよく、心も体も満たされるような食事を作ることは大切なんだけど難しくて、ついつい後回しにされてしまうプログラムの一つで、けれどもそれを一所懸命やろうとしてくれる(やっている、ではなくやろうと努力してくれている)神戸ダルクの仲間たちってすごいなって思っています。で、この夏のキャンプ飯もどれもとても好評でした。「こんな風にするんや？」とか「懐かしい感じの味せえへん？」とか「これって時短やな」とか、調理の工程も楽しみながら、いろんなお料理スキルを身につけてもらったりしています。

川遊びは前日、前々日の大雨の影響で 1 日目断念し、2 日目にダムの上に上流ならいけるかもとの情報を得て、下見に行きましたがどこも厳しそうでした。水位によっては遊泳自体を禁止にしているキャンプ場もありましたが、午後から、安全管理ができるよう少人数ずつで川遊びを楽しみました。3 日目は朝から真夏の空の下、私も子供達を連れて川遊びや岩場からの飛び込みなんかをしてきました。水が極冷で震えましたが(笑)楽しかったです。十津川村ですが、この辺りは温泉もあって、1 日の終わりにキャンプで疲れた体を癒すには最高の場所です。後から知ったのですがけっこう観光名所もあり、今度は家族でゆっくり行ってみたいと思います。日中の気候も過ごしやすく、夜は少し肌寒いくらいの時もあって、夏のレジャーにはもってこいのところなので、機会があれば皆さんもぜひ行ってみてください。そして、ダルクの仲間も見えていた景色なんだな、なんて私たちのことを思い出してもらえたら嬉しいです。

茨城ダルクフォーラム ほっちゃん

7 月 30 日(日)茨城ダルクの 31 周年を記念するフォーラムに行ってきました。フォーラムの開催されている会場では、太鼓が行われていました。ダルクのメンバーや幼稚園児、そして女性の方もおられた。演技はものすごい迫力で、皆ビシッと揃っていて、とても感動しそして驚きました。一体いつ覚えたのでしょうか。私たちには真似は出来ません。いやあ凄かったです。それから、岩井代表の講演もとても面白くタメになりました。人を束ねる器量をお持ちだと本当に思いました。本当は元ヤクザなの？と疑ってしまうほどです。お年も 76 歳と高齢にも関わらず、何とハツラツとして若々しいのでしょうかと私は感心しました。神戸ダルクの代表や何名かの仲間も茨城ダルクから巣立った人はどこか

性根が座っています。そして太鼓も出来ますし、誇りに思っているようです。私と全然違いますね。茨城ダルクの仲間は全部で 25 名おられるそうで。全員太鼓が出来るのでしょうか。すごく練習されているのでしょうか。もう一度太鼓を演技されている姿を観たいのと、岩井代表のお話を聞いてみたいです。私はギャンブルやアルコールや覚せい剤で何度も服役し、精神病院のお世話にもなりました。とても情けない人間です。でも今回の茨城ダルクのフォーラムに行き、太鼓の鑑賞、そして代表の講演やメンバー達のお話を聞かせていただき何か元気が出てきたように思います。近いうちに神戸ダルクでもエイサーを披露するらしいですが、私は全く太鼓は叩けません。一応練習はしているのですが、あの速い動きや回転したりするので、目がグルグル回ってしまいます。他の仲間にお任せするしかないでしょう。いろいろな中間施設を見学したり、演技を観たり、講演を聞いたりすることは、私の回復にとっても役に立つと思います。私も 64 歳ですし、もう 2 度と馬鹿なことは出来ないと思います。これからも他県のダルクのフォーラムや行事に参加して勉強していきたいです。茨城ダルクの皆さん、素晴らしい演技を見せていただき本当にありがとうございました。代表の岩井様、そして沢山の仲間のお話し、とてもタメになりました。感謝します。

鳥取岡山神戸合同フェローシップ

につきん

コロナが流行る 3 年ほど前に鳥取ダルクにフェローシップをしました。施設から眺める日本海の美しい景色がとても印象的でしたが、今回 8 月の終わりに私たちは鳥取ダルクへと 2 泊 3 日の合同フェローシップへと向いました。鳥取ダルクに着くと多くの仲間から握手とハグと自己紹介をして暖かく迎えてくれました。多くの仲間からハグされたのは久しぶりだったので恥ずかしい気持ちもありましたが嬉しかったです。怒涛の自己紹介で名前を一度に覚えることが出来ませんでした。。。笑

そのあと海へ出かけるわけですが、海を見た瞬間とても綺麗なこと！海に入りながら、何気なく空を見ていたら「幸せだなあ～」と思いました。そう思えることに本当に感謝しなくていけないですね。仲間たちとだんだん語りながら海から戻ると、岡山ダルクの仲間も合流し、いよいよご飯。30 人前以上のご飯とシチュー、鳥取・岡山ダルクの仲間たちが豪快に食べている姿を見ながら、美味しいご飯をいただきました。とても美味しかったです、食事を作ってくれた仲間感謝です。ミーティングにも参加しましたが、回復と向き合っている仲間の話や自分が話しているときに大勢の仲間に名前を呼ばれたときは一体感を感じて嬉しかったです。布団を敷いて仲間たちと川の字で寝て、次の日は BBQ と海水浴。火おこしもバッチリ！肉もすごい量！！ごはんはカレーと準備していただいてフェローシップ開始！鳥取岡山の仲間の勢いの凄さに飲まれてしまいました。遠慮がちだった神戸の仲間たちも仲間たちの協力している姿に影響されて声かけしたり片づけを行っていました。皆んなの姿を見て、いい刺激もらってるな～と嬉しい気持ちになりました。僕が鳥取ダルクにきて 1 番驚いたことは夜のミーティングが終わってからの余暇時間に各々がステップワークを行っていたことです。回復について仲間たちと真剣に向き合っている姿に感動しました。なかなか回復について仲間同士で分かち合う機会があまりないので羨ましいなと思いました。ファイヤーミーティングが終わると花火、そのあと梨を食べました。仲間たちが花火をしている姿を見ていると童心に帰っているような感じがして、不思議な感じがしました。最終日、オープンスピーカミーティング。セッティングもフォーラムみたいでチーさん、トモさん、梅さんのスピーチを聞かせてもらいました。タイムキーパーも神戸の仲間がやり、その空間を一緒に作っている感じがしました。スピーカーが終わり、僕は梅さんと先に帰りました。フェローシップが終わり、神戸ダルクに帰ってきた仲間達に変化が。。。笑

次の日から鳥取ダルクや岡山ダルクのニュースレターを読み始め、会った仲間たちの話を楽しそうに語っていました。コロナ禍で、こんな濃密なフェローシップしてこなかったのも僕も含めてですが、とてもいい経験をさせてもらいました。準備やフェローシップしていただいた鳥取ダルク、岡山ダルクの仲間感謝し、また会えることを楽しみにしています。ありがとうございました。

鳥取アディクションフォーラム

たか

繋がって1年10カ月になります。アディクションフォーラムに参加するため、前日から智頭町のロッジに泊まり出発したので出発が朝8時と余裕のスタートをする事が出来ました。現地に着き、アロハホール近くになると鳥取ダルクのメンバーが案内の看板を持って立って来ていました。顔を合わせるとニコッとお互い笑って再会を喜びました。これまでも合同フェローシップ、岡山ギャザリング等で親交を深めていたので喜びも倍増していました。フォーラムが始まると来賓挨拶からNABA代表の講演があって、自分は当事者ではないし初めて聞く話でしたが、何となくどういう事なのか理屈は解った様な気はしましたが、苦しくて辛いということはよく解りました。昼食後、分科会で断酒会、家族会、NA、GA、AA、ACA等様々な所に分かれてミーティングでしたが、自分はもう一人のメンバーとNAの模擬ミーティングに参加しました。時間の関係で話すことはありませんでしたが、様々な話を聞けて良かったです。終了後、ホールに戻り、当事者、家族の体験談があったのですが、あるメンバーがスリッパした話をしていて、フェローシップの時は普通に話していて、聞いていてもピンと来なかったのですが、たまたま鳥取ダルクのニュースレターを見たら、その人の手記が載っていて、めちゃくちゃエライことになってるやん！と事の大変さと新しい再出発している勇気を感じていたのでも心に響きました。仲間の存在は有難いものだと思います。続いて、質疑応答があったのですが、なかなか聞く事もないんじゃないか？と思っていましたが、沢山の方から一杯質問されていました。最後に挨拶で無事に終わりました。昨年のフォーラムにも参加させて頂きましたが、去年は夜にNAミーティングにも参加して雰囲気を感じさせていただきました。アディクションフォーラムに参加させていただき、ありがとうございました。フェローシップとかギャザリングもあったのですが、人に会う事、関わる事は凄く大事なんだなと思いました。後、社会にいる人達との関係もそうですが、ずっと一緒にいる事だけが大事なのではなく離れていてもまた会えば一体となれる関係って楽しいなと思いました。皆さんにまた会えるのを楽しみにしています。



プサンへGO！

鍵やん

プサンに施設で旅行に行くことになって、その時が早く来ないか待ち遠しかった。時が流れて、その時が来た。飛行機に乗って待っていた。飛行機が走った時、とても面白かった。プサンに行くことが初めてなので楽しみでした。いざ行く時が来たら何を食いたいかなとか何を買いたいかなとかを考えると頭の中が一杯になって、いざその時が来てプサンの空港に着いてロビーを歩いていたら、お金の両替の人がいてお金を替えてもらった。そういうことも初めての体験だったし、プサンに行くことも初めてで楽しかった。プサンの空港は、とても暑かったけど楽しく思えた。そして今度はロビーから電車に乗る駅まで歩いて移動をした。そして駅に着いて電車がくるのを待った。駅はとても広かった。そして電車が来て、それに乗って、今度は僕たちが泊まるホテルまで電車で移動して電車から見るプサンの景色はとても美しくビルも高かったし、感動しました。神戸では見れない景色なので外を見ても飽きなかった。そして電車に乗っていたら僕たちが泊まる駅に着いて、今度は歩いてホテルまで行った。歩いていると道には一杯、道に店が出ていて、見ながら歩いていた。食べ物も安くて、日本とは違いました(笑)。そして泊まるホテルに着きました。そしてロビーに行くと、そこで話している外国の女の子がいて、握手をしました。優しい女の子でした。そして少し経ってから外にご飯を食べに行きました。いろんな店があったけど韓国はやっぱキムチと焼肉と思い、皆で焼肉を食べに行った。とても美味しかった。そして歩きながらホテルに帰りました。そして次の日は観光地に出かけた。自分は韓国ドラマが好きで行った観光地はそういう所だった。とても素敵に思った。買い物をするところも人一杯だった。でも色々な服やアクセサリーが会って買うのに迷う。プサンにいったことは一生心に残ることだと思う。施設から出たら今度は友達と一緒にまた行きたいと思う。今度はプサンと違ってソウルに行きたいと思う。今度は買い物を一杯したいと思っている。本当にプサンの夜の山や景色はとても綺麗で感動しました。



活動報告

6 月
ファミリーサポートグループ参加
瀬戸内海クルージング体験プログラム
播磨社会復帰促進センター薬物教育
八王子ダルク体験談メッセージ
六甲山登山プログラム
加古川学園家族教室
加古川学園薬物教育メッセージ
トラウマインフォームドケア学習会開催
加古川学園カウンセリング

7 月
木津川ダルクフォーラム参加
神戸保護観察所来訪
屋上 BBQ 大会開催
公園にて BBQ 開催
播磨社会復帰促進センター薬物教育
釜山ダルクフォーラム参加
釜山ダルク訪問
播磨社会復帰促進センター薬物教育
NA 全国会議参加
高松刑務所薬物教育参加
こころの健康センター PTSD 研修参加
トラウマインフォームドケア学習会開催
茨城ダルクフォーラム参加
QP マヨネーズ神戸工場見学

8 月
播磨社会復帰促進センター薬物教育
ファイザー助成報告会



鳥取マテルグ合同フェロー プラン
加古川学園カウンセリング

9 月
立憲民主党意見交換会講演
グリコピア見学
NA 岡山ギャザリング参加
バンクーバーラストドア視察
リカバリーキャピタルカンファレンス参加
ニューウエストミンスターリカバリーデイ参加
明石市長室訪問
播磨矯正展参加
トラウマインフォームドケア学習会
鳥取アディクションフォーラム参加

定期開催
姫路家族教室 毎月第2土曜日
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
姫路無料家族相談 毎月第1火曜日
尼崎無料家族相談 毎月第1水曜日
垂水病院すまーぷ参加 毎週金曜日
保護観察所すまーぷ 毎月第4金曜日
ヨーガプログラム 毎月1回

近況報告・活動予定

色々なことが忙しく目まぐるしく回っていて、ニュースレターも遅くなってしまいましたが、スタッフ間でのやり取りが非常に上手くできているように思います。そういう部分では本当に感謝するばかりです。

さて、活動予定ですがこれから様々な行事に参加していくことが多くなりそうですが、年末に向けての準備、それぞれの助成金事業に沿って地域との連携を進めていく事業があります。ようやくその実現ができるようになってきています。また、2024 年 2 月 10 日(土)の午後から「神戸ダルクフォーラム」を開催決定しました。同日の午前に同じ会場で野坂祐子先生を招いてトラウマインフォームドケアの学習会の報告会も予定しております。テーマは「原点回帰」です。詳しくはチラシをご覧ください。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」
年間購読のお願い

この広報誌「スレッションルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便の取得ができました。年間購読費は年 6 回発行で 2000 円になります。お申し込みは FAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は 1 口 3000 円（ニューズレター定期購読料を含む）からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください
神戸ダルク ヴィレッジ
TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741
e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談
相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

生田 茂美様 宮域 明子様 千葉菜の花家族会 富井 建夫様 益子 玄一郎様

藤澤 眞知子様 伊佐 将人様 間 明子様(他匿名希望 2 名)

ご献品

小林 正英様 林谷 みどり様 福山 国一様 生田 茂美様

(令和 5 年 6 月 15 日～令和 5 年 9 月 20 日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。昨年度はお米の寄付をたくさんいただいて、なんとかみんな空腹で苦しむことなく、お腹いっぱいご飯を食べることができました。また、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。洗剤などもたくさんいただいたので非常に助かっています。今非常に助かるのは、食材や日用品です。コロナの影響で外出が少ないため、ストレス発散には、どうしても食事が進んでいきます。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。また、ボランティア活動も気軽にお声掛けください。私たちは体力だけはありますので、荷物運搬など気軽にお声掛けください。日々の感謝をそのようなことで返したいと思っています。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

ご存知の通り、スレッシュヨルドの枠のカラーとタイトルは毎回違うものを使っているのですが、そろそろ選択する色やフォントがなくなってきました。次号で 40 号ですからね。こんなにたくさんのニュースレターが発行できるとは思ってもいませんでした。ありがたいことなのですがニュースレターの発行はとても労力を使います。そろそろ誰か変わってもらいたいものです。少し風も気持ち良くなりました。と思っていたら寒い冬

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.39

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100 円 年会費 3000 円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階